

## 鹿児島の岩石・化石③

「<sup>ほう</sup>散<sup>さん</sup>虫<sup>ちゅう</sup>革命」

地質担当 桑水流淳二

放散虫は、体長が 0.1 ～ 0.5 mm のとても小さなプランクトンですが、殻には彫刻のような美しい模様があります。そしてこの殻は二酸化珪素（ $\text{SiO}_2$ ）からできており、とても堅く、化石として残りやすい性質があります。

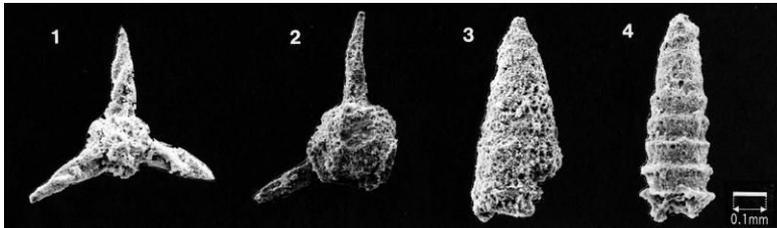
近年、この放散虫化石の研究により、これまで不明だった鹿児島の大地の生いたちが急速に明らかになるとうとしています。

特に阿久根市から薩摩川内市にかけてみられる地層は、これまで古生代のものではないかと考えられていましたが、放散虫化石の発

見により、それより新しい中生代ジュラ紀に堆積したことが分かりました。また、大隅半島から種子島・屋久島にかけて分布する地層から新生代古第三紀のほぼ同じ時代に見られる放散虫化石が見つかり、一連の地層であることも分かりました。

とても小さな放散虫ですが、この化石たちが従来考えてもみななかった事実を次々と私たちに教えてくれているのです。まさに「放散虫革命」です。

阿久根市五色浜から発見された放散虫化石



- 1 *Betraccium* aff. *deweveri*  
Pessagon and Blome
- 2 *Capnuchosphaera* (?) sp.
- 3 *Laxtorum* (?) sp.
- 4 *Triassocampe* sp.

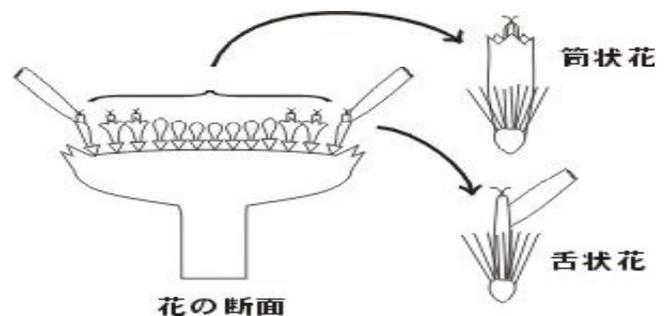
## 鹿児島の植物④

## 「ヨメナ（キク科）」

植物担当 大屋 哲

八月頃から、道ばたなどに紫色の花を咲かせるヨメナが見られます。田んぼのあぜ道などにも普通に見られ、鹿児島では野菊と言えればこの花を指すことが多いようです。

花をよく観察してみると、紫色に見える外側の部分は、花びらをもつ舌状花と呼ばれる小さな花の集まりです。内側の黄色の部分は、筒の形をした筒状花と呼ばれる小さな花の集まりです。つまり、ヨメナは紫色と黄色の小さな花がたくさん集まってできたものなのです。



このほか、キク科植物には、タンポポのように舌状花だけが集まってできたものやアザミのように筒状花だけが集まってできたものもあります。

ヨメナの名前の由来は諸説ありますが、春先の若芽は食用として美味、そしてやさしく美しく、ムコナ（シラヤマギク）に対してつけられた名とも言われています。天ぷら、ごま和えなど食材として、さらに、葉の香りがよく、もんで石けんのかわりとして使ったり、やけどや打ち身、虫さされの民間薬として使ったりと、昔から人との関わりの深い植物の一つなのです。